



Title	太宰治スタディーズ 別冊第3号 編集後記 奥付
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ 別冊. 2017, 3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/62138
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

太宰治スタディーズ別冊

太宰治スタディーズ 別冊第3号
2017年6月19日発行
「太宰治スタディーズ」の会

発行者：「太宰治スタディーズ」の会

発行所：斎藤理生

〒560-8532

大阪府豊中市待兼山町1-5

大阪大学大学院文学研究科内

斎藤理生研究室

表紙写真：小澤 純

印刷：(有)大気堂

編集後記

■「太宰治スタディーズ」別冊第3号をお届けいたします。本号は、論文2本、資料紹介1本、書評1本で構成されています。いつもながら、別冊のため本数は少なめですが、近代文学研究／太宰治研究の幅広さを示せたのではないかと存じます。

■書評としては、この会のメンバーから4名が執筆者として関わり、太宰治「桜桃」がとりあげられた、『テキスト分析入門』（ひつじ書房）について、外部の執筆者にご寄稿をお願いすることができました。この場を借りまして、改めて御礼申し上げます。

■太宰治に関して、2008年の「没後60年」、2009年の「生誕100年」以降、太宰治人気はそれまでとはステージがまた1つ変わったように感じられます。「ユリイカ」（2008.9）が「特集＝太宰治／坂口安吾 無頼派たちの“戦後”」を組んだ際には、ブックジャケットを刷新した集英社文庫『人間失格』が話題の中心だったように記憶しています。それからじき10年がたとうとする現在、旧来からの文学的興味ばかりでなく、マンガやゲームなどにとりあげられることで、太宰治はさらなる「散種」を遂げつづけているようにすら思えます。他方、ことアジア圏からの留学生は、入口は日本文化／サブカルチャーながら、作家論的な興味関心を抱いている学生が、むしろ多いようにも思います。興味深いことです。

■印刷・製本については、(有)大気堂さまにお世話になりました。

■研究会のブログ：「太宰治スタディーズ」blogも、時折更新しております。
〔<http://d.hatena.ne.jp/d-studies/>〕
ご参照いただければ幸いです。